
《論文》

現代英語研究の実際と辞書記述 — コーパスを利用して —

八 木 克 正

はじめに

本稿の目的は、主として英和辞典の記述を現代英語の実態と照らしあわせて、その問題点を見ることにある。

現代英語の実態をみるのに便利な巨大なコーパスが利用できる時代になった。OED 2, AHD 3, RHD2などの辞書がCD-ROMになって利用できる。インターネットによって海外の言語学者の意見を問うたり、インフォーマントの情報もコンピューター上で得ることができる。このように便利な道具と方法はいつでも使える状態にある。これからの問題は、どんなデータをどんな目的で得るかということである。すなわち着想である。データの収集も目的がはっきりしていないとデータが多ければ多いほど整理が困難になり、收拾がつかなくなる。

言語学的な研究は料理に似ている。清潔な調理場に最新式の調理器具が備えてある。だがこれだけでは何も始まらない。新鮮な食材と、何をおいても意欲的で最新の調理の技術を身につけた調理人が必要である。新鮮な食材は、みずから市場に出向いて吟味し手に入れて来なければならない。

研究の技術は、特定の言語理論から直接借りてくることもできるし、みずから開発することもできる。しかし、一般的には技術は研究をする中で磨かれてゆくものである。新鮮な食材は市場で買ってこれることができるし、技術は時間をかけて学習することからみがかれてくる。だが、着想は買ってこれることはできない。

着想をどこから得るか。われわれが英語のさまざまな事実を知るのは、書物、雑誌、放送などといったものであるが、ただ漫然とこれらのものを読んだり聞いたりしているだけでは何の問題意識も浮んでこない。それではどこから研究の着想を得ることができるだろうか。

ひとつの方法として、ただ闇雲にデータを集めていれば、そのうち問題が浮き彫りになるだろうという考え方がある。たとえば特定のデータバンクの中から、仮定法あるいは進行形の動詞をすべて抜き出して、それを分類し文献の記述と比較するという方法がある。この方法は一般的に時間がかかり、データに埋没し、所期の目的を達成することができなくなる可能性があ

る。問題意識がないままデータを集めることから開始するというのは、一般的にすすめることのできる方法ではない。

今言語学の世界で何が問題になっているのかを知る方法は、何ととっても各種の論文雑誌である。これらの中に興味を引くテーマを見いだすことは、困難ではないであろう。ただ問題は、興味をもったテーマについて雑誌論文ですでに語り尽くされている場合があるということである。若干の改良を加えることしか議論の余地がない場合がある。それでは独自の研究はどのようにして可能になるのだろうか。

現在もっとも進歩的な英語の記述をしているのは、英和辞典である。また、英米の辞書の記述も新しい情報の宝庫である。専門的な研究書などの書物の形になっているものも参考にはなるが、包括性からみるとやはり上述のような辞書類がすべての面でもっとも先進的な情報を満載していると言える。また、先進的であるがゆえに多くの問題点を含んでおり、研究の最先端のすぐれた点と弱点を見せている。ここが着想を得る宝庫である。

ちなみに、英和辞典などの統語情報などはどこから得られているのだろうか。独自の研究成果がもられているのは当然のことながら、さまざまな辞書、usage 関係の辞書はもちろん、内外の英語に関する論文や、各種の人目にはふれにくい論文などからもとられていることが多い。本来は出典を示す義務を負うのであるが、それが省略されているという重大な問題がある。本来は、煩をいとわず掲載するべきであろう。

本稿では、特別な説明を加えず、おもに英和辞典の記述から得たことをヒントに現代英語の実態を調べた結果を述べる。現代英語を研究する意志のある人たちにとっての新たな研究のきっかけになることを期待する。なお、理論的な分析の方法については、八木(to appear, 1998a, 1998b, 1998c)を参照されたい。

1 動詞の補部の that 節, 不定詞付き対格, 小節

1.1 伝達動詞

1.1.1 declare

Dixon(1991:232)によれば、declare が他動詞で that 節をとる場合は問題ないが、目的語＋補語で to be を省略できるのは「遂行動詞」としての用法の場合であり、

(1) *They declared him clever.

は不可で、

(2) They declared that he was clever.

(3) They declared him to be clever.

の形が可能であるとする。従って、一部の英和辞典があげるような、

(4) I declare that she is innocent.

= I declare her to be innocent.

= I declare her innocent.

といった3つの形が並行して存在しているかのような例文のあげかたは検討してみる必要がある。裁判官が言うならば遂行動詞として、

(5) I declare the defendant innocent.

のように言うだろう。(1)(5)の類例をあげる。これらの例を見れば「遂行動詞」、すなわち言い換えれば「決めつけ」の意味であることがわかる。(6)(7)はWT 1991より。

(6) ..., your agreement usually gives the lender the right to declare the whole loan immediately due and payable, or foreclose.

(7) Skeptics might declare fanciful the belief that Iraq, ..., could retain republicanism absent external coercion.

to be を取った例をあげる。いずれも調査に基づく判断を表している。

(8) ..., who was declared to be a virgin by an examining doctor after her extradition to South Korea. [WT 1990]

(9) Yeltsin prepared the statement after his human rights commissioner visited Chechnya, reported counting 42 dead civilians and declared the offensive itself to be a violation of human rights. [LA 1994]

1.1.2 predicate

「断言する、断定する」の意味では、that節、目的語+to beをとることができるというのが英和辞典の多くの記述であるが、これはOALD4にある、

(1) predicate a motive to be good

(2) predicate that the market practice was caused by the weakness of the dollar

の用例に基づくものであろう。COBにはthatをとった例(3)があったが、COB2では省かれている。

(3) it has been predicated that a seismic shock was the cause of these phenomena

CIDEにもthat節をとった例がある:

(4) It would be unwise to predicate that the disease is caused by a virus before further tests have been carried out.

しかし、to beをとった例はUED、NSODにもない。またOALD5では(2)の例は残っているが(1)は省かれている。WT 1991、LA 1993などの検索でもない。「断言」の意味では目的語+to beの形は今では使われることはないと考えてよい。

1.1.3 proclaim

「公言する」の意味のproclaimがとる動詞型はわかりにくいところがある。OALD5では、that節、wh節、目的語+名詞補語をとることが指摘されている。CIDE、COB2はthat節はあげている。またCOB2は、

(1) He still proclaims himself a believer in the revolution.

という再帰代名詞＋補語の形をあげている。目的語＋名詞補語の型では、目的語が再帰代名詞でなければ受身形が普通である。

(2) the entire state was proclaimed a disaster area [BBI]

(3) After its independence India was proclaimed a republic. [OALD4]

(4) In founding the United States, the leaders of the Federal Convention proclaimed themselves students of history. [LA 1994]

LA 1994には、to be をとったものがある。

(5) The ads proclaimed Aleve to be "All day strong — all day long"

(6) When the leaders proclaim abortion to be a crime against Almighty God, does it not follow that ...?

that 節、目的語＋to be 目的語＋名詞補語のどれもとることが可能である。

1.2 思考・認識の動詞

1.2.1 allow

堅苦しい用法で、「…であることを認める」の意味の allow には、OALD4, OALD5が that 節のほか目的語＋to 不定詞の型を認めているが、LDCE3は that 節しか認めていない。COB, BBI, COB2, CIDE も that 節しかない。UED には

(1) I allow that I was a bit hasty.

の例があるが、目的語＋to do はない。NSOD の用例に、

(2) Sherridan: They'll not allow our friend ... to be handsome.

の例がある。

そもそも「許す」の意味の場合と「認める」の意味の場合とは、区別しにくいことが多い。(2)は、our friend is handsome ということ話し手が「認める」ことはできるが、「許す」というのは不自然さを感じる。すなわち、話し手が自分の意志で変更可能なことについて述べている場合は「許す」の意味で、変更できない事実として確定していることについて述べる場合「認める」の意味と考えてよい。そうすれば、(3)(4)は「認める」の意味でしかありえない。

(3) No artist in history, for example, accomplished such drastic stylistic shifts in such little time (a few years) as Van Gogh, and few allowed those shifts to be so visibly personal.

[LA 1994]

(このような変遷が、明らかに個人的なものであると認める人はほとんどいない)

(4) ... it could be used as a passenger plane, but included features that allowed it to be easily converted to a bomber. [LA 1994]

(それは、旅客機としても使えるし、簡単に爆撃機に転換できることを可能にする様々な特徴を含んでいた)

このように見てくると、allow は最初にあげた that 節も目的語+to 不定詞もとるという OALD4, OALD5の記述は正しいものと言える。

1.2.2 assert

assert について、八木(1987:46f.)は8人のインフォーマント調査の結果として that 節をとるタイプしか使えないのではないかと述べたが、LDCE に She asserted the charge to be incorrect. という目的語+to be の例があることを示した。おそらく LDCE の影響であろうか、英和辞典の多くが目的語+to be の例をあげている。しかし、LDCE2ではこの例もパターンも省かれ、筆者の知る限り現代英語を扱った英米の辞書で to be+補語の形をあげているものはなくなった。CGEL, Close (1975)も assert には that 節しか認めていない。

1.2.3 boast

boast についても、八木(1987:47f.)は独自の調査にもとずき that 節をとる形だけが普通であることを示したが、Web.3に boasts himself to be a better man than his neighbor の to be をとる例をあげていることも指摘した。UED, OED 2も含めて筆者が調べた限り、英米の辞書では that 節をとる形しか認めていない。CGEL, Close (1975) も同じである。また、LA 1994などでも to be をとる形はない。

1.2.4 conceive

CIDE などのイギリス系の辞書の中には、conceive は、

- (1) I cannot conceive that he would wish to harm us. [OALD4]
 (2) I could not conceive that he would do such a thing. [BBI]
 (3) I cannot conceive that she would lie to me. [OWPD]

のような、that 節の例をあげるものもあるが、LDCE2, COB, COB2にはない。実例を見ると that 節をとった例は珍しくない。WT 1991から例をあげる。

- (4) "Do not conceive that fine clothes make fine men any more than fine feathers make fine birds."
 (5) It was hard to conceive that people could think of such laws.

いずれも否定的な文脈で用いられている。

また、conceive ... (to be)+補語の形があるだろうか。まず、to be のない例をあげる。以下、いずれも WT 1991の例である。

- (6) ..., and when the media conceive it their duty to report in detail every private tragedy, every ghastly blunder that occurs in war and that their cameras can record.

次に、to be のある例。

- (7) "There are a lot of Americans who are extremely disappointed in what they conceive to be

the lack of real response on the part of Saudi."

受動形であれば O to do の形もある。

- (8) "I think it's extremely exciting that finally the U.N. has really come into its own and been able to play the role it was originally conceived to fulfill."
- (9) The strikes were conceived to disable equipment used to pump the oil through a pipeline to a ship-loading terminal eight miles out in the Gulf,....

1.2.5 conclude

八木(1987:48f.)は独自の調査により conclude は that 節をとることが可能で、目的語+to be +補語は、8人のインフォーマントのうち5人が容認していることを示した。目的語+補語は不可である。LDCE2, OALD4, CGEL, Close(1975)も that 節しか認めていない。

- (1) After all these years, she has concluded her son must be dead.
- (2) California health authorities concluded the savings to be about 2 to 1,

(乳幼児の救命率が、2人に1人であるという結論に到った)

1.2.6 deem

deem の補部は that 節、目的語+to be/ to do,目的語+補語の形はすべて可能である。OALD 4は、目的語+to be/目的語+形容詞をとる場合は「特に受動形で」としていたが OALD5ではそのコメントは省かれている。WT 1991, および LA 1994の検索では to be のある場合は大半が受動形で、能動形の数は少ない。能動形の場合は特定の権威をもった人が行う判断を表すと言える。

まず that 節の例をあげる。OALD4, LDELC は that 節をあげているが、OALD5, CIDE は that 節の例はあげていない。

- (1) They deemed that he was no longer capable of managing his own affairs. [OALD4]

次に to be をとらない例をあげる。以下(2)(3)は WT 1991からの例である。

- (2) Corrections Commissioner Richard Lanham said that..."those inmates deemed responsible will be prosecuted."

次に、能動形の例。

- (3) Mr. Steinberg deemed it too early to make any announcements regarding an election three years away, but with other potential candidates....

次に、to be をとった例。(4)(5)は LA 1994から。

- (4) ..., regardless of whether a court has deemed the action to be murder.
- (5) ..., our company is deemed to be an American-controlled foreign company under Australian law....

as をとった例がある。

- (6) These editions are justly deemed as precious, and they command high prices in the rare-

book trade.

1.2.7 perceive

「知覚する, 認識する」の意味では, that/wh 節はとるが, 目的語(+to be+)補語の形は LDCE 3, OALD5, COB2, BBI, CULD にはない。実例を見ると, ... is perceived as .../to do/to be の受動形はある。以下はいずれも WT 1991から。

- (1) ..., but he sure wasn't perceived as Mr. Nice Guy.
- (2) The "distinct threat" is perceived to come not from the Arabs but from the Americans.
- (3) ... he is perceived to be neglecting domestic problems
- (4) Mr. Franks, ..., apparently perceived himself as without suitable image in his hometown as he got ready for a challenge next year

2 補部の種類

2.1 伝達動詞

2.1.1 attest

attest が that 節をとる例はあるが, 一部の英和辞典があげるような wh 節, having done, doing は, 資料の検索や COB2, OALD5, BBI, LDCE3などの辞書でもない。今日では使われることはないと考えてよい。that 節をとった例をあげる。

- (1) She later attested that he slept or slept it off... [WT 1991]
- (2) ... river channels and lake beds visible from spacecraft attest that water was abundant 3.5 billion years ago,... [LA 1994]

OED2の次の例の hunting は, 「狩猟」という意味の名詞と考えられる。

- (3) Petroglyphs, like microliths, attest hunting over many areas now uninhabitable. [s. v. PETROGLYPHS(1952)]

2.1.2 mutter

OALD5, LDCE3, COB, COB2, CIDE にはないが, BBI には,

- (1) she muttered (that) she would catch up later
という that 節をつた形がある。Declerck (1991: 1182)にも that 節をとる旨の記述がある。CIDE, COB2 は, that 節ではないが直接話法の伝達動詞としての用法と用例がある。
- (2) Looks like it could use a coat of paint, muttered someone as we approached the hotel. [CIDE]

以下は, WT 1991 の例。

- (3) But there were many who muttered that Mr. Louw had "gone soft."
- (4) ..., council President William E. Hanna Jr. muttered that council member Michael Gudis was defending the Fairland

mutter も伝達動詞の役割があることがわかる。

2.1.3 plead

plead の他動詞用法で、COB, OALD5, LDELIC, BBI, CIDE などは that 節をとる用法はあげていないが、COB2には that 節をとるという用法指示がある。実際には伝達動詞として使われる。決して珍しくない用法である。

(1) He could also plead that the securities he bought were issued by agencies sponsored by the federal government — [LA 1994]

(2) Black neighbors pleaded that the boy, ..., needed help, but police concluded [WT 1991]

2.2 思考・認識の動詞

2.2.1 check

that 節をとる形がある。whether 節は確信のない事柄について、that 節は事実の確認の意味である。

(1) He checked that both the rear doors were safely shut. [COB G]

(2) Visitors left their identity papers at the entrance and were led up only after police checked that they had an appointment. [WT 1991]

2.2.2 contrive

「企む」の意味の contrive が、名詞の目的語以外に to 不定詞をとることは周知であるが、一部の英和辞典が示すような that 節をとるかどうか検証してみよう。

Web. 3, NSOD, COD8など筆者が見た限り英米の辞書はすべて、to 不定詞をとると明示しているが that 節をとるとするものはない。OED2には that 節の例が20例あるが、そのうち20世紀のものは次の1例のみである。

(1) I have contrived that some most secret treasures Shall (sic.) lie an age untouched, and late-discovered Shall (sic.) be the source of hope and peace. [OED2, s. v. LATE (1932)]

一部の英和辞典には that 節の中では仮定法現在が使われるというものがあるが、OED2の20例の中にはその例はない。OED2の例を少しあげておく。

(2) The Count of Campania ... has contrived that three banners of horse should leave his party by stealth. [s. v. BANNER (1818)]

(3) A Cypher ... so contrived that one line, without returns and circumflexes stands for each and every of the 24 Letters. [s. v. CIRCUMFLEX (1655)]

LA 1994には contrive が約140例あるが、that 節をとったものはない。また、to doをとったものが10例、to beをとったものが1例ある。他はすべて過去分詞形で名詞の前置修飾をしているか補語になったもの、および名詞の目的語をとったものである。

このような調査から *that* 節が普通に用いられるとは考えられない。

2.2.3 feign

feign の他動詞の用法で, *feign oneself (to be)+補語/feign that* 節の形はイギリス系の学習辞典にはない。BBI には,

- (1) He feigned that he was sick.

の例があるが, 他には見あたらない。NSOD は "*feign to be, to do*" の構文をあげているが, 今問題にしている構文ではない。OED2 をみると次の古い例がある。

- (2) The Lord Treasurer...ever secretly feigned himself to be a Moderator and Mollifier of the
Catholicks Afflictions. [OED2, s.v. MOLLIFIER (1592)]

- (3) He feigned himselfe to be evill at ease. [OED2, s.v. EASE(1642)]

Corpus を調べてみると, *feign* 自体の例がほとんどないが, Brown, LOB いずれも *that* 節, *to be* をとる例はない。

LA 1994 の約 88 例の *feign* の中で, *doing* をとった例が 4 つあるほか, 名詞を従えたものしかなく, *that, to do, to be* をとった例はない。*doing* をとった例をあげる。以下の例は, LA 1994 より。

- (4) ... approach potential victims in his car, feign being lost, pull out a gun and demand cash.
(強盗の手口)

- (5) Players will often feign being tripped and take acrobatic dives when the ball is legally taken from them.

LA 1993 には, 動詞の *feign* は約 85 あるが, *doing* をとったものが 2 つ, *to do* をとった例が 1 つある。その他はすべて名詞の目的語をとり, *feign ignorance* (無知を装う) に類似した例ばかりである。*to do* の例をあげる。

- (6) But she will have none of it; she feigns not to believe it.

2.2.4 prefer

that 節をとった例は LOB に 1 例あるだけで, Brown, London-Lund にはない。このように *that* 節をとることは珍しいといえる。*that* 節が使われた場合, 通常は *that* 節は仮定法現在をとっている。(2)(3)は, LA 1994 による。

- (1) Charles Hanson might have someone who would prefer that he did spend his evenings in
Paris in lonely solitude. [LOB P20 94]

- (2) One might prefer that Islamists not come to power.

- (3) Most ushers would prefer they (=raider games) be fewer and farther between.

2.2.5 reflect

「すでに起ったことについて考え直す, 熟慮する, 思い起こす」の意味で *that* 節をとる例は, OALD4, COB2, CIDE に見える。

- (1) She reflected that his argument was probably true. [OALD4]

OED2には、最近の例に次のものがある。1つだけあげる。

- (2) He reflected that, at the time, he thought his efforts had 'put the tin hat on it'.

[OED2, s. v. TIN HAT(1977)]

OED2には how をとった例は19世紀のものしかないが、LA 1994にはある。

- (3) The historic buildings reflect how villagers here once lived, worshipped, studied and defended themselves.

- (4) ... said Lotah's efforts in Malibu reflect how aggressively he has pursued jobs elsewhere.

2.3 その他の動詞

2.3.1 offend

三浦・リード(1988)は be offended with は今は古いと言う。その説の通り WT 1990, 1991には with の例はない。LDCE3, CIDE は be offended that の動詞型をあげる。

- (1) I was very offended that you forgot my birthday. [LDELIC]

- (2) I think she was a bit offended that she hadn't been invited to the party. [CIDE]

OALD5, COB, COB2には that をとった例はないが、WT 1991には実際の例がある。

- (3) ..., they feel unjustly treated by the press and are puzzled and offended that they should be accused of ecological crimes.

- (4) "They feel frustrated and offended that they handed in their arms,"

(1)-(4)の例を見ると、offended はすでに形容詞化しており、that 節は I'm glad that.../I'm happy that ...などの形容詞に続く、理由を表す名詞節と同じものと考えられる。

2.3.2 rethink

think と異って rethink は名詞の目的語をとる。wh 節をとることも特徴的である。以下の例は LA 1994から。

- (1) The recent string of events has prompted parent John Parsons to rethink where he wants his daughter Yvette to go to school.

- (2) ..., others are looking toward 1995 as an opportunity to rethink the pace of development.

2.3.3 recognize

recognize A as B の形はあるが、一部の英和辞典があげる recognize A to be ... はあるかどうか検証してみよう。OALD4には、

- (1) Everyone recognized him to be the lawful heir/ as the lawful heir.

OALD5には、

- (2) He was recognized to be the lawful heir.

の例がある。イギリスの他の学習辞典にはない。LA1994にはいくつもあり、決して珍しいものではない。アメリカ英語と考えられる。

(3) Most provisions of Proposition 187 are now widely recognized to be unconstitutional,

(4) Baird said he immediately recognized the mortgage to be a rip-off.

that 節の中に仮定法が使われた例がある。

(5) This new equation would recognize first that men be held equally responsible for their children.

3 動名詞と不定詞

動詞が補部として、動名詞を選ぶか to 不定詞を選ぶかという点でも十分な共通理解があると思えないものを例示する。

3.1 cease

cease doing は活動・行動をやめるとき、cease to do はある状態が終わるときに使うという区別をする英和辞典がある。また、状態動詞では to do のみで doing は不可という見解を示す英和辞典もある。これらを検証してみる。

用例を見ると、to do は確かに「状態が終わる」の意味でも使うことがわかるが、そればかりではなく「行動をやめる」の意味のものもある。doing は行動の動詞に限られるようである。以下の例は、すべて WT 1991による。

- (1) 「状態が終わる」: But the Saint Bernards have long ceased to be the working dogs that brought them fame throughout the world.
- (2) 「行動をやめる」: ..., the Soviet Union has ceased to threaten the United States, and the president is advancing a policy of nuclear disarmament
- (3) 「行動をやめる」: ..., under which most teachers have ceased to participate in after-school assignments.

3.2 commit

英和辞典では、「…に参与する、係わる」の意味で、commit が to doing の他に to do をとるとするものがある。COB, COB2, OALD5, LDCE3, CIDE はいずれも to do をとるとするものはない。WT 1991を調べてみると、doing と不定詞の両方の例がある。以下の例はすべて WT 1991による。commit to do はアメリカ英語の可能性はある。

- (1) "But at the same time, we want to be good neighbors and are committed to straightening out the situation."
- (2) The agency apparently liked what it saw. Chrysler "is committed to deliver 50 more to GSA in March," Mr. Tiaht says.
- (3) Before the union collapsed, the Soviet government had committed to destroy about 14,500 warheads — 4,500 through START and 10,000 tactical weapons

3.3 contract

「契約をする」の他動詞の *contract* が、*to* 不定詞の他に *to*+動名詞を目的語にとるかどうかが検証してみよう。

OALD5, LDCE3, COB2などは動名詞をあげるものはない。また、COD8, CED, NSODでは分類は自動詞・他動詞の違いはあるが、*to* 不定詞をとることを明示している。WT 1991, LA 1994で実際の用例を調べてみると、*to do* をとった例しかなく、すべて *be contracted to do* の受動形をとっている。OED2にも *doing* をとった例はない。LA 1994から *to do* をとった例を1つあげる。

That's because he is contracted to do three more years of "Home Improvement" after this season,

このように動名詞をとるとは考えにくい。前置詞の *to* をとった例があるが、これは契約の相手を言う場合である。

3.4 qualify

「資格がある」の意味の *be qualified to do/ for something* があるが、英和辞典にあるような *for doing* をとることが普通にあるのだろうか。イギリスの学習辞典の用例にはあるにはある。だが、

(1) She is qualified for teaching music.

のような言い方よりも、

(2) She is qualified to teach music.

とする方が普通である。WT の検索でもほとんどが名詞をとっており、*doing* は数少ない。以下の *for doing* の2例は WT 1991の例。

(3) ... the government was solely responsible (and uniquely qualified) for defining what an S & L was,

(4) She was on the ballot in all 50 states, qualified for matching campaign funds from the federal government and....

4 動詞の使役用法

いわゆる純粋な使役動詞である *force*, *make*, *cause*, *have*, *get* といったものとは違って、本来は別の意味をもっている動詞が、「…をすることによって、強制的に…させる」という使い方を発展させた動詞がある。動詞によって *to* 不定詞をとったり、*in*, *into*, *from* などの前置詞をとったりするが、その記述が今まで不十分であったと思われるものをあげて検討してみる。ここで問題として取り上げるのは、いずれも英和辞典などに用例あるいは用法指示であがっているものである。それらの記述が事実にあっているかどうかを検証する。

4.1 abet

この語は前置詞 *in* をとるのが普通であるが、*to* 不定詞あるいは *from* を取った例がある。あ

るといってもほんのわずかで、to 不定詞は LA 1994の中に abet の用例が89あるが、そのうち1例しかない。from はない。以下は、WT 1991の例。

- (1) "Why on God's earth would we want to aid and abet a murderer to retain his position as the head of Iraq?"
- (2) ... whether China would abet or restrain the Khmer Rouge from carrying out the classic communist strategy of subverting a coalition into a monolithic communist regime.

このような例をもって abet は in 以外に to 不定詞も from もとるとするのは問題があろう。例外的な用法と認識した方がよいだろう。

4.2 goad

goad into の他に goad to do がある。

- (1) He kept goading me to fight. [BBI]
- (2) Hunger goaded him to steal a loaf of bread. [WBD2]

COB2, LDCE3, OALD5 などに to do の例はない。WT 1991を検索してみる。

- (3) It may be goaded and prodded and invited to respond to all manner of new ideas
- (4) Palmer, ..., said he threw no sliders, a pitch that his former manager — and nemesis — Earl Weaver always goaded him to use.

このような例はある。珍しくはないが、アメリカ語法と考えてよい。ただし、NHD, RHWD にもは to do の例はない。

また、まれに、前置詞が to の例がある。

- (5) [She was] goaded to desperation by his remoteness,

4.3 lead

他動詞の lead は to 不定詞をとって「人を誘導して…させる, …するように人を導く」という使役用法がある。to 不定詞の他に, into+名詞, into doing があるかどうかはイギリスの学習辞典で見る限りはつきりしない。BBI にも to 不定詞をとった,

- (1) What led her to resign?

の例があるが, into+doing の例はない。

lead は「…へ案内する, 導く」の意味で, into+場所を従える。これからある行為へと導くの意味で, 次のような使役的用法が生まれた。以下は LA 1994の例。

- (2) ... she led the band into ragged, clangorous action.
- (3) ..., the faithful would be led into error and confusion

動名詞をとることもできる。

- (4) "I think there's a possibility of deep psychological core problems. I think it could lead kids into doing bad."

次の例についてもインフォーマントは問題ないとする。

(5) He led his wife into resigning her job.

4.4 persuade

persuade a person to do は良いが, persuade a person into/ out of doing は, 現代英語では不可とする見解がある[『英語教育』QB(1983.7, 河上)]. しかし, BBIにはないが COB2, OALD 5, LDCE3いずれもこの型を認め用例をあげている。わずかであるが into の例がある。また, 三浦・リード(1988)も文体的には to doの方がよいとしながらも, into の形と用例をあげている。(1)(4)は名詞句を従えた例。

(1) I was starting to get persuaded into the street life. [LA 1993]

(2) If a grown woman lets herself be persuaded into dressing like a little girl, [WT 1991]

(3) Mr. Jacobs said he was persuaded into selling most of his 3-million-bushel holdings and... [WT 1990]

persuaded to+名詞 の例もある。

(4) They are important tools, but they will be confounded unless the public is persuaded to the wisdom and propriety of the policy behind the laws.

4.5 stimulate

使役動詞としての用法で, to do 以外に into doing, to doing の形があるかどうか調べてみよう。NSODには語義の説明の中には to do しかないが, Hardy からの引用例に in を使ったものがある。イギリスの学習辞典には into/ to はない。LA 1994には, into+名詞の例が1つある。
... teaching courses that clearly illustrate how to motivate and stimulate young children into math and science; ...

普通に使われることはないと考えられる。

4.6 terrify

COD8には terrify O into の例がある。

(1) terrified them into submission

ほかのイギリスの学習辞典にはない。BBIには it terrifies 人 that/ it terrifies 人 to do の用例があるが, これもイギリスの学習辞典にはない。実例はある。次例は LA 1994による。

(2) Verrette talks about the "freeze response," comparing women who become paralyzed with fear in frightening situations to deer terrified into immobility by oncoming headlights.

(3) ... they will be shocked and terrified into becoming good citizens.

5 再帰形か受動形か

動詞によって本来他動詞であるものが, 自動詞的な意味で使われる場合に再帰形で使うのか, あるいは受動形で使うのか, どちらでもいいのか, 今までの研究で明らかではないと思われるものについて検討を加えてみる。

5.1 engage

「従事する」の意味では受動形をとることは間違いないが、再帰型をとるかどうか検証の必要がある。OED2では1850年の用例が最後で、それ以後は見あたらない。LA 1994にも再帰形をとる例はない。

(1) I must beg indulgence once in a way, to engage myself in a dry and somewhat tedious discussion. [OED2, s.v. WAY(1842)]

(2) I then engaged myself, with the other merchants, in a pearl-fishery, in which I employed many divers on my own account. [OED2, s.v. PEARL-FISHERY(1850)]

その他、COB2, OALD5, LDCE3などで記載するものはない。小西(編)(1980)でも再帰型はあげていない。

他動詞用法の例はある。

(3) The Correllians' suspicion at his approach vanished as soon as he engaged them in conversation. [G. Lucas, *Star Wars*]

be engaged to do/ be engaged on ...の例がある。

(4) The first was to Johan Schilinker to tell him that the ship that would be engaged to carry the ammunition from Spain would be the MV Toscana, [F. Forsyth, *The Dogs of War* (1976)]

(5) 'Well, Prime Minister, I suppose they fear an assassin has been engaged to attempt to kill the President.' [F. Forsyth, *The Day of the Jackal* (1971)]

(6) He summoned two detective inspectors whom he knew to be presently engaged on low-priority research work, [F. Forsyth, *op cit.*]

(7) He was engaged on the phone again. "Hello, Edward. How are you?...." [I. Wallace, *The Almighty* (1982)]

「婚約する」の意味でも受動形(あるいはengagedが形容詞化しているとするものも多いが)が普通であるが、再帰型があるかどうか考察してみよう。辞書ではUEDに再帰形の例がある。OED2にも古い例がある。NSODは「通例受動形」とする。形容詞化している証拠の一つにbecome engagedの例がある。become engagedを不可とする英和辞典があるが、これは誤りであろう。LA 1994には再帰形をとった例はない。

(8) She became engaged to John. [CULD]

(9) I'm getting on for twenty and I have become engaged. [COB U]

to be marriedをとった例もある。

(10) "Ever been in any trouble?" "Not that anyone knows about. She's a wonderful girl. She's engaged to be married." [E. S. Gardner, *The case of duplicate daughter* (1962)]

5.2 obligate

英和辞典の obligate の動詞用法で、「主に受動形または oneself」とするケースが多いが、NSOD, COD8他イギリスの学習辞典はいずれも「主に受動形」とする。LA 1993, 1994には再帰代名詞をとった例はない。再帰代名詞をとった形は今はずたれたと考えられる。

5.3 occupy

「時間を…に使う；没頭する」の意味の occupy は、OALD5, COB2, CIDE, LDCED いずれも、人を主語にとった場合は必ず oneself をとった例をあげている。これに対して、LDCE3, COD8は受動形をとるとする。英和辞典の多くは oneself と受動形の両方をあげる。

- (1) This game will keep the children occupied. [LDELIC]

は、一見例外に見えるが人を主語にしていない。

資料を調べてみると、再帰代名詞をとったものと受動形の例はいずれもある。

- (2) Yet that is what the artistic director of the Paris Opera Ballet will be occupied with for the next three years,.... [WT 1991]
- (3) Mrs. Clinton has been occupied with drafting a health reform package that would provide basic medical benefits to the 40 million Americans who [LA 1993]

少なくともアメリカ英語では再帰形、受動形いずれも使われることがわかる。

5.4 poise

いくつかの英和辞典に、動詞の用法の poise が受動形か oneself をとり、be poised to do/ for …あるいは poise oneself to do の型で「用意ができている」の意味になるという記述がある。

イギリスの学習辞典や COD8は、いずれも再帰代名詞をとる形はあげず、poised の形容詞の見出しで be poised for/ to do の形しか認めていない。NSOD も「受動形で」と明示し、再帰代名詞をとる形には言及がない。

MWCD, RHD2, AHD3では、poise にはこの語義も与えていない。実際の例は受動形で現れ、数多く見られる。英和辞典の記述が事実を反映していることは次のような例でわかる。次の2例は LA 1994から。

- (1) ..., it is still unclear whether Orange County delegates will assume the committee leadership positions they are now poised to take.
- (2) More profound reforms, Stein said, will be forthcoming next year in the now Republican-dominated Congress, where lawmakers are poised for sweeping revisions —....

5.5 steep

動詞用法で、「人が没頭する、精通する」の意味では、再帰形と受動形が同じように使われるとは思えない。LDCE3は「完全に満たされて；精通して」の意味では受動形しかあげていない。OALD5は、

- (1) He steeped himself in the literature of ancient Greece and Rome.

の例がある。一般的に言って、受動形が主語の能動的な活動について述べるとは考えにくい。

LA 1994の用例を見ると、受動形はやはり受動的な結果について述べ、再帰形は能動的な活動に言及していることがわかる。以下の例はいずれも LA 1994による。

- (2) "The importance is the Jewish Ashkenazim life was steeped in Yiddish all these years.
(重要なことは、アシュケナジウム系ユダヤ人の生活が、この間イディッシュ語に浸っていたことだ)
- (3) Frank, for example, like most artists his age, was steeped to the bone in Noir's bleak expressionist conventions, and.... (例えば、フランクは、同年代の他の芸術家と同じく、骨の髄までヌアールの荒涼とした表現主義の伝統に浸っていた)
- (4) Having steeped himself in the region's cultural diversity, he discusses Japanese immigration, Cambodian and Armenian festivals,....
(地域の文化的多様性に身を浸していた彼は、日本の移民、カンボジアとアルメニアの祭りを論じている)
- (5) She also steeped herself in fables — the timeless tales from around the world that remain her preferred vehicle of storytelling. (彼女はまた寓話の世界に身を浸していた — 寓話は、世界中から集めた、時間を超越した物語であり、彼女が今でも物語を伝えるのに好んで使う手段となっている)

6 動詞か形容詞か

もともとは動詞であったものが、受動形で使われることが多いために、本来の動詞としての機能を失って、分詞形容詞(participial adjective)になったと記述される場合がある。どの時点で、どのような条件があつて、過去分詞から形容詞になったと考えるのか検討が必要だが、記述的な立場から、中間的と思われるものを検討してみる。

6.1 derange(d)

通例受動形で使われるが、形容詞化しているかどうか検討してみよう。能動形はないと言える。次は WT 1991から。

- (1) "I'm angered by someone who could be so deranged that they could kill a 3-year-old child," Chief Isaac Fulwood said,
- (2) In 1980, rock star John Lennon was shot to death outside his New York City apartment building by an apparently deranged fan.
- (3) The whole equilibrium of Europe has been deranged....

(3)は動詞の受動形と考えることもできる。だが、能動形がないことから全体的に形容詞化していると考えられることができる。

6.2 enamor(ed)

イギリス系の辞書は、COB2, LDCE3, OALD5, CULD といった学習辞書は enamoured の形容詞の見出しであるが、COD8, POD8やアメリカ系の辞書は他動詞の見出しで、すべて「通常受動形で」の注がある。

(1) I'm not very enamoured of this new scheme. [LDELIC]

のように、完全に形容詞化したと考えられる例もある。また、COD8, POD8では、前置詞は of しかないのに比べ、学習辞典では of, with の両方がある。実例では of, with の他に to もある。

(2)(3)(4)(5)は、WT 1991による。

(2) ... John Oates, ... who is enamored of the pitcher's competitiveness.

(3) Although not totally enamored with his approach, Democrats are less fond of Mr. Bush's bill and

(4) "Many of the activists ... will not be enamored to Wilder's message of fiscal conservatism."

by をとった例はひとつしかないが、これを見ると動詞性をまだ残しているとも考えられる。

(5) Sources said Geiger was enamored by Duffner's ability to build winning football teams with stringent academic standards.

WBD2は他動詞で能動形の例をあげる：

(6) Her beauty enamored the prince.

しかし、能動の例は WT 1991 では見あたらないことから、形容詞化していると考えてもおかしくはない。

6.3 garble(d)

COB2, OALD5, LDCE3は、動詞としての garble の見出しはなく、形容詞としての garbled の見出ししかない。LDCE2は動詞の見出しをあげていたが、用例は、

(1) He was overexcited, and gave a garbled account of the meeting.

という名詞を前置修飾する例であった。COD8は他動詞の語義説明があるが用例はない。POD8は、'unintentionally distort or confuse (facts, messages, etc.)'の語義で「形容詞として」の注がある。アメリカの辞書は、通常他動詞の定義である。WT 1991から他動詞の用例をあげる。少なくともアメリカ英語では他動詞の用法は生きている。LOB, Brown いずれも動詞 garble の例はない。以下の例は、WT1991より。

(2) ... the page of sports scores transmitted to the shuttle with other messages may have been garbled.

(3) Mr. Gorbachev drew mocking laughter when he garbled a sentence that should have said,

しかし、名詞を前置修飾することも多い。

6.4 prepossess(ed)/ prepossessing

英和辞典には、prepossess の動詞としての見出しがある。そして、それが主として受動形で使われるといった注を与えるものが多い。それは COD の見出しのたて方とその説明にならったのかもしれない。

NSOD は、「あらかじめ所有させる；受動形で、所有する」の意味は《廃用》としているが、「偏見を抱かせる；良い印象をもたせる；思いこませる」の意味は《廃用》とはしていない。アメリカ系の辞書には、どの意味についてもとくに受動形で使われるといった注もない。これに対して、LDELIC には prepossessed, prepossessing の形の見出ししかない。COB, OALD, LDCE 3にはこの ed の形はなく、prepossessing しかない。COB2にはどちらもない。LA1993, 1994には prepossess, prepossessed の例はなく、prepossessing が1994には1例、1993には6例あるだけである。現実に使われることは少ないと考えてよいと思う。

コーパスなどの略称

OED 2: *The Oxford English Dictionary on Historical Principles* on CD-ROM, 1992.

Brown: Brown Corpus.

LOB: The Lancaster-Oslo/ Bergen Corpus, tagged version.

WT 1989, 1990, 1991: *Washington Times* 1989, 1990, 1991.

LA 1993, 1994, 1995. *Los Angeles Times* 1993, 1994, 1995.

辞書の略称

Activator: *Longman Language Activator*. (1993) Longman Group UK.

AHD 3: *American Heritage Dictionary*, 3rd ed. (1992) American Heritage.

BBI: *The BBI Combinatory Dictionary of English*. (1986) John Benjamins.

CED 3: *Collins English Dictionary*, 3rd ed. (1991) Collins.

CHAMBERS: *Chambers English Dictionary*. (1988) Chambers.

COB: *Collins COBUILD English Dictionary*. (1987) Collins.

COB 2: *Collins COBUILD English Dictionary*, revised ed. (1995)

COB G: *Collins COBUILD English Grammar*. (1990). Collins.

COB U: *Collins COBUILD English Usage*. (1992) Collins.

COD 8: *The Concise Oxford Dictionary of Current English*, 8th ed. (1990) OUP.

CULD: *Chambers Universal Learners' Dictionary*. (1980) Chambers.

Evans & Evans: V. & C. Evans, *A Dictionary of Contemporary American Usage*. (1975)

LDCE 2, 3: *Longman Dictionary of Contemporary English*, 2nd ed. (1987), Longman

- Group UK; 3rd ed. (1995) 桐原書店.
- LDELC: *Longman Dictionary of English Language and Culture*. (1992) Longman Group UK.
- LDEI: *Longman Dictionary of English Idioms*. (1979) Longman Group.
- LDEL2: *Longman Dictionary of the English Language*, 2nd ed. (1992) Longman Group UK.
- LEXICON: *Longman Lexicon of Contemporary English* by T. McArthur. (1981) Longman Group. OUP.
- MWCD: *Merriam Webster's Collegiate Dictionary*, 10th ed. (1993) Merriam Webster.
- NSOD: *The New Shorter Oxford English Dictionary on Historical Principles*. (1993) OUP.
- OALD 4,5: *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*. (1989, 1996) 開拓社、OUP.
- ODEG: *The Oxford Dictionary of English Grammar* by S. Chalker & E. Weiner. (1994) OUP.
- OGEL: *The Oxford Guide to the English Language*. (1984) OUP.
- OWPD: *Oxford Wordpower Dictionary*. (1993) OUP.
- OTh: *The Oxford Thesaurus*. (1991) OUP.
- RHD2: *Random House Dictionary of the English Language*, 2nd ed. (1987) Random House.
- UED: *The Universal Dictionary of the English Language*, by H. C. Wyld (1952年版) Routledge & Kegan Paul.
- WBD2: *The World Book Dictionary*, 2nd ed. (1978) World Book.
- Web. 3: *Webster's Dictionary of the English Language*, 3rd ed. (1961) Merriam-Webster.
- WNWD: *Webster's New World Dictionary of American English*, 3rd college ed. (1994) Prentice Hall.

参考文献

- Close, R. A. 1975. *A Reference Grammar for Students of English*. Longman.
- Declerck, R. A. 1991. *A Comprehensive Descriptive Grammar of English*. 開拓社.
- Dixon, R. M. W. 1991. *A New Approach to English Grammar, on Semantic Principles*. OUP
- 小西友七. (編). 1981. 『英語基本動詞辞典』 研究社.
- 三浦新一&リード・リード. 1988. 『前置詞中心英語表現辞典』(再版) 大修館書店.

- Quirk, R., S. Greenbaum & J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Longman. [CGEL と略す]
- 八木克正. 1987. 『新しい語法研究』 山口書店.
- . 1996. 『ネイティブの直観にせまる語法研究—現代英語への記述的アプローチ』 研究社出版.
- . to appear 1998a. 「英語記述文法の原理と応用—周辺的言語現象の扱いをめぐって(1)」『社会学部紀要』 79. (関西学院大学社会学部)
- . to appear 1998b. 「英語記述文法の原理と応用—周辺的言語現象の扱いをめぐって(2)」『社会学部紀要』 80.
- . to appear 1998c. 「動詞の意味特徴と補文構造」『現代英語の語法と文法』. 大修館書店
- Yagi, Katsumasa & Don Kaduhr. 1990. "Misused English in English-Japanese Dictionaries," *Helicon* No. 15. (Journal of English Literature and Linguistics, the English Department, Tezukayama College)

(やぎ かつまさ 関西学院大学社会学部教授 英語学専攻)